

# SABO Mt.Fuji

懇談会

## 基調講演 シビックデザイン

今まではより速く、より多く、より安く物をつくっていく事がとにかく大事だとされてきました。そのおかげで、私達は経済的に豊かな生活をする事が出来ましたし、日本は世界の中で有数の経済大国になる事が出来たわ

けです。それは一つの大きな目標を達成したわけですが、ふと気がついてみると何となく忘れてきたものがあるのではないかと。それは、生活の中の潤いであったり、豊かさであったり、その町の個性といったようなもの、



名古屋大学工学部助手  
工学博士 佐々木 葉  
○東海環状シビックデザイン  
導入検討会委員  
※現在は日本福祉大学  
情報社会科学部助教授

地域の歴史、文化と生態系に配慮した  
使いやすい美しい公共土木施設



発行  
建設省  
富士砂防工事事務所  
富士宮市三園平1100  
電話(0544)27-5221

富士山の砂防の事業展開を計るうえで地域の方々から提言、要望を聞く場とし「富士山と公共土木施設と景観」について懇談会を開催いたしました。

つまり全国どこも同じような道が走っているのではなくて、この地域には地域なりの道をということとで、これからつくっていくものは、ちよつと考え方を変えていく必要があるのではないかということになって来ました。では、どんな考え方で物をつくっていったらいいんだろうと考えた時に、地域の歴史や文化、あるいは生態系に配慮したものをつくろう、そして美しいもの、又、お年寄りや子供も含めて、みんなが使いやすいものをつくっていいこう。これがこれから求められる二十世紀の

終り、二十一世紀に向けて日本がつくっていくかなければいけない土木構造物のあり方です。

ヒメシャジン



~~~~~ 富士宮「高砂殿」 平成7年3月30日(木) ~~~~~



教員在職中から野山を歩き、富士宮の自然に関する調査研究を。現在は富士宮市富士山文化塾の委員としても活躍されております。

「オンタデ」という花は、私たち子供の頃には高い所にはなかったはず。大地の境と云って新六合目付近にはあったがそれより上にはなかった。今行ってみるとずっと上、極端なことを云うと八合目付近まで上がった。



佐野 登  
富士宮市地域自然  
調査研究会会長

砂防施設と景観について、御意見、御提言を受け、どうこれからの砂防工事をやってゆけば良いか、そういうことをこの懇談会の中で見つけられたらと思います。

構造物については人工の構造物ですので、自然の中では木などで隠すことは出来るけれども全然なくしてしまふことは出来ない。



星野和彦  
富士砂防工事事務所所長

ない。どうしても形のあるものだから、そこに存在感が出て来る。ですから新しく入った構造物がそこにある景観として受け入れてもらえるような構造物を造っていききたい。少なくとも景観の中で出しゃばりもせず、消えもせずと、それくらいの形のもの、何をかうまく造っていいかなという気がします。何れにしても非常に大規模な構造物が多いので、どうしても造った当初は目だつてしまふということがありますけれど、また時がたてば少しづつ隠れるかなという感じがあります。

これらは数が少ない、だから傷められることがないようお願いするわけです。

「ヒメシヤジン」と云う花もありです。

タカネビランジ



提供 佐野 登

います。砂がサラサラと動く砂礫地へ一番最初に入っていく植物じゃないのかなと。もし砂防関係の方で植付けをするならば、これらは一番強いじゃないかと思えます。

それから、大沢には「タカネビランジ」と云うすばらしいのがあります。

①景観を支えている原風景  
②歴史の記憶を呼び戻すような景観  
③人々が育んで来た懐かしい景観  
④都市の文化が造る魅力ある景観

の四つを基に作成し「潤いのある美しい街造り」を考えています。

「富士山の庭園都市」をテーマに「都市景観形成ガイドプラン」作成。潤いのある美しいまちづくりを。

富士宮市の景観形成、基本方針として



佐藤 寛  
富士宮市役所  
都市計画課長

## 「SABO Mt. Fuji」懇談会



守る為には妥協しなければいけない、そういう考え方もあります。富士宮市としては今後、富士山の砂防については自然と調和するような砂防工事をお願いしていきたいと思っています。

大沢崩れにつきましては、地元住民は過去から現在まで、大沢崩れのもと「無限谷」と呼んでいたわけですね。「無限谷」とは仏經典の言葉であると同時に、無限の土砂が崩壊して落ちていく場所であるという「無限」とも考えられてもよろしいわけでありすが、その為の下流域に住む人々が、いかに苦勞したか正確に記述し、大沢崩れに対する我々自身の立場を明確にしていきたいと思っています。

平成四年度の第一回懇談会より座長として本会をまとめられております。

富士砂防等でもいろいろな構造物を造るわけですが、凝ったデザインとかを考えるよりも、むしろ、人間の視線に触れるものは、単純な中において、訴えるものが必ずあるのではないかなと思われので、そういったものを具体的に追及することが必要かなと感じているわけです。



若林 淳之  
静岡学園短期大学学長

地元、女性写真家として主に富士山を、天候さえよければ毎日のように撮り続けているそうです。

富士山は、私達の心をなごませてくれます。野や山に咲く花



塩川 説子  
全日本写真連盟会員



撮影 塩川 説子

が心に安らぎを与えてくれます。鳥のさえずりを聞きながら、自然と対応し、シャッターを押す私は、本当に幸せだとありがたく思います。

大沢崩れを見るたびに、美しい姿が変らないようにといつも願ひ、富士山をいつまでも大切にしたいと。

それは、みんなで力を合せて守っていかなければと思ひます。



# 1995年3月17日 富士山東斜面で発生した雪崩位置図



195・3・17富士山東斜面で発生した雪崩について

## 富士山で雪崩発生

一九九五年三月十七日に富士山東斜面で雪崩が発生し、富士砂防工事事務所では、発生直後に調査を行った。

富士山で発生する雪崩は主に初冬型と春型があり、スラッシュ雪崩と呼ばれている。発生の前日十六日は東海地方で史上最も遅い方から二番目の「春一番」が吹いた日であり、当事務所の大滝観測所(南西斜面標高一、七〇〇m)の総雨量八六mm、時間最大雨量は一四mmであったことから、今回の雪崩は典型的な春型であることが考えられる。発生地点は東斜面の標高二、〇〇〇～二、二〇〇mと比較的低く、東斜面全域(幅約三km)で標高約一、二〇〇mの太郎坊付近まで達し、場所により森林内を約二〇〇m破壊し停止している。また、富士山スカイラインの太郎坊向の分岐点付近で幅約一〇〇mを寸断し、しばらくの間通行止めになった。発生時刻としてテレビの中継施設が被害を受け、受信できなくなったのが午後二時五〇分であることからその数分前と考えられる。今回の調査から、過去(平成三年・四年)に発生したスラッシュ雪崩と左記のような幾つかの共通点があると思われる。

- ①前日(深夜)から気温の連続上昇があること。
- ②積雪上に連続降雨が供給されること。
- ③標高の高い所で雪から雨に変わる。
- ④暖かいほぼ一定方向の風が続くこと。
- ⑤凍結による不透水層があること。



## 平成6年度 土砂災害防止



## 作文コンクール

## 河川局長賞

## 「知る努力、語り継ぐ努力」



富士市立須津中学校

松下 智子

私の通っている学校の横を流れている須津川は、雨が降らない限り、水が流れることはありません。大きな石がゴロゴロしている川ですが、その大きな石も遊ぶのにはとても都合のよいものでした。したがって私は、須津川を怖い川だと思ったことは全然ありませんでした。

しかし、所属している文芸部の上級生に、「ふだん水のない川ほど怖いのだ。」ということを教わり、びっくりしました。上級生は、富士山の大沢崩れや雲仙普賢岳を例にとり、「大沢川もふだんは枯れ沢なんだ。でも融雪時や雨期などに、崩壊地である大沢崩れから、年間二十万立方メートルもの土砂を流出させているし、普賢岳の被害も『水無川』流域だったことを考えてごらん。」

と言いました。そして、須津川の石は富士山の横にある愛鷹山が崩れて流れてきているものだということや、昭和四十九年の七夕豪雨の時の須津川周辺地域の被害のことも、データーを示しながら教えてくれました。その折がけ崩れなどかなりあったこともわかりました。

なるほどと思いますが、私が生まれてこの方、大沢崩れによる被害や須津川の土砂災害は聞いたことがありません。すると、上級生は、大沢川にも須津川にも、砂防ダムがあることが、被害を少なくしてくれているのだと説明してくれました。

生活を守ってくれている床固工や落差工、溪岸工、砂防樹林帯などを見て、大きな自然と闘って下さっている方々の存在に改めて感謝の念を持ちました。

富士砂防工事事務所の所長さんや建設専門官の方々のお話によると、須津川には、新しいダムを二つ作る予定で、来年度工のみこみというところでした。その場所は、特に大きな石がゴロゴロしている所です。自然の中に作るダムということで、コンクリートをむき出しにするのではなく、自然石を利用してダムを作って下さるそうです。その配慮に嬉しくなりました。

教職員球技大会で足を痛められたため、私達と見学会に行くことができなかった顧問の先生に、そのことをお話すると、先生は、

「広島県の安芸の宮島の紅葉谷川も、やはり土砂災害の危険があつて、砂防工事がされているんだけれど、景観をそこねないように配慮されていたわ。やっぱり自然石を使っているね……。」と、旅行に出られた折撮ってこられた写真を見せて下さいました。私はその時、この間家族と福島に旅した時の川にも落差工があり、山を削って作った道の山肌には、積雪対策がされていたことを思い出しました。日本のどこも、安全さと快適さをつくり出すための努力がされているのです。

須津川の砂防ダム計画の中には、第一砂防ダム





# 平成7年度 土砂災害防止 募集

小・中学生〔絵画〕〔ポスター〕〔作文〕



建設省では、土石流、地すべり、かけ崩れ等の土砂災害から人命、財産を守るため、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、土砂災害防止に関する国民の皆様のご理解とご協力を得るよう種々の行事を行っています。

この絵画・ポスター・作文の募集は、土砂災害防止月間の行事の一環として、明日の日本を担う小・中学生の皆さんに、土砂災害及びその防止についてのご理解と関心を深めていただくために実施するものです。

## 1. 募集対象

絵画の部、ポスターの部、作文の部ともに全国小・中学校生徒

## 2. 課題

(1) 題材は土砂災害およびその防止対策に関するもの。

たとえば、身近で発生した土石流、地すべり、かけ崩れなどの土砂災害の体験やようす、砂防ダム・かけ崩れ防止施設等の土砂災害防止施設及びそれらを造っているようすなど。

(2) サイズ、書き方は自由とし、未発表のものに限ります。

○絵画の裏面に画題、応募者の学校名(フリガナ)、学年、氏名(フリガナ)を明記してください。

(3) 題材は土砂災害防止月間にあたり、土砂災害防止に対し関心を深めるもの。

たとえば、土砂災害の恐ろしさを訴えるものまたは、砂防ダム・かけ崩れ防止施設等が土砂災害防止に役立っていることが理解できるものなど。

(4) サイズ、書き方は自由とし、未発表のものに限ります。

○ポスターの裏面に画題、応募者の学校名(フリガナ)、学年、氏名(フリガナ)を明記してください。

(5) 題材は土砂災害およびその防止対策に関するもの。

たとえば、土砂災害に関する体験、土砂災害対策と環境との調和等に関する意見または、土砂災害防止施設の見学の感想など。

(6) 400字詰め原稿用紙5枚以内とし、未発表のものに限ります。

○応募者の学校名(フリガナ)、学年、氏名(フリガナ)を明記してください。

送先 千420 静岡市追手町9-6 電話 054-221-3041  
静岡県土木砂防課  
「土砂災害防止に関する絵画・ポスター・作文」担当  
期間 平成7年6月1日から平成7年9月30日まで。

# 平成7年度 写真コンテスト(第8回)

# 土砂災害防止 標語コンテスト(第4回)

## 1. 目的

毎年全国各地で土石流、地すべり、かけ崩れ、火山噴火などの激甚な土砂災害が繰り返され、甚しい人命や貴重な財産が失われています。

このような悲惨な土砂災害の防止・軽減に関して、広く国民の関心と認識を深めるために、6月を「土砂災害防止月間」として建設省・各都道府県等において各種の行事や推進運動が実施されています。

これらの行事の一環として、広く一般から応募を行い下記を実施します。

## 2. 応募規定

|         | 写真コンテスト                           | 標語コンテスト                  |
|---------|-----------------------------------|--------------------------|
| サイズ(規格) | 白黒、カラープリントとも四つ切り、単写真に限る。          | 土砂災害防止に関するテーマで、広報性のあるもの。 |
| 応募点数    | 1人3点以内                            | 官製葉書1枚に1点とし、1人3枚以内とする。   |
| 記載事項    | 題名、氏名、年令、性別、住所、電話番号、職業、撮影年月日、撮影場所 | 氏名、年令、性別、住所、電話番号、職業      |
| 締め切り    | 平成8年3月31日<br>(消印有効)               | 平成7年10月31日<br>(消印有効)     |

作品の帰属等…入選作品の著作権は主催者に属し、応募作品は返却しない。

送先 千102 東京都千代田区平河町2-7-5  
社全国治水砂防協会  
写真コンテスト係  
標語コンテスト係 電話 03-3261-8386

その私達のやりとりを聞いておられた顧問の渡辺先生が、

「上級生は、須津川の砂防施設を下級生に見せて説明してあげなさい。今ある砂防施設は、県で作られたものだけれど、近々、建設省の方で新たな砂防ダムを作るという計画もあるみたいだし、その前の状態を知っておくのもいいでしょう。夏休みには、建設省富士砂防工事事務所の方に頼んで、大沢崩れやその砂防ダムを実際に見に行きましょう。」

と言われました。

そこで、私達は、上級生に連れられて、須津川の砂防施設を見に行きました。見慣れた川の中に、気づかずにあったコンクリートの段差——それが落差工であり、土砂の勢いを弱め、土砂をたまりやすくするものであることがわかりました。

また、昨年、そして今年と、二度に亘って大沢崩れを間近に見、自然のすごさ、大きさを感じました。さらに、そこからの土砂の災害から私達の

と第二砂防ダムとの間を整備して、キャンプ場などを作るということも入っているそうです。須津のすてきな自然を訪れた人に安心して味わってもらえるんだなあと、何だかワクワクします。

それに、何といってもこの須津川の砂防工事には、私達須津中文芸部員が役を買っているのですから、思い入れも強いのです。富士山の沢崩れや砂防見学会を通しての感想文集を文芸部で作り、我が須津地区に配ったことにより、砂防工事への理解と期待が深まり、工事説明会もスムーズに行われた等のことをうかがったからです。

私は、こうした文芸部での活動を通して、語り継ぐ大切さを痛感しています。治山治水は、国を支える土台です。自然災害のない国はありません。こうしたことを考えるに、昔の災害のようすや言い伝えに耳を傾け、身近な山や川の状況や砂防施設などを積極的に知り、知ったことを伝えていく必要があると思うのです。私達が上級生に導かれたように。



須津第1ダム完成予想図



# グラフ 見学会



7/26 富士宮市立富士見小



7/6 静岡市上足洗い 母親クラブ



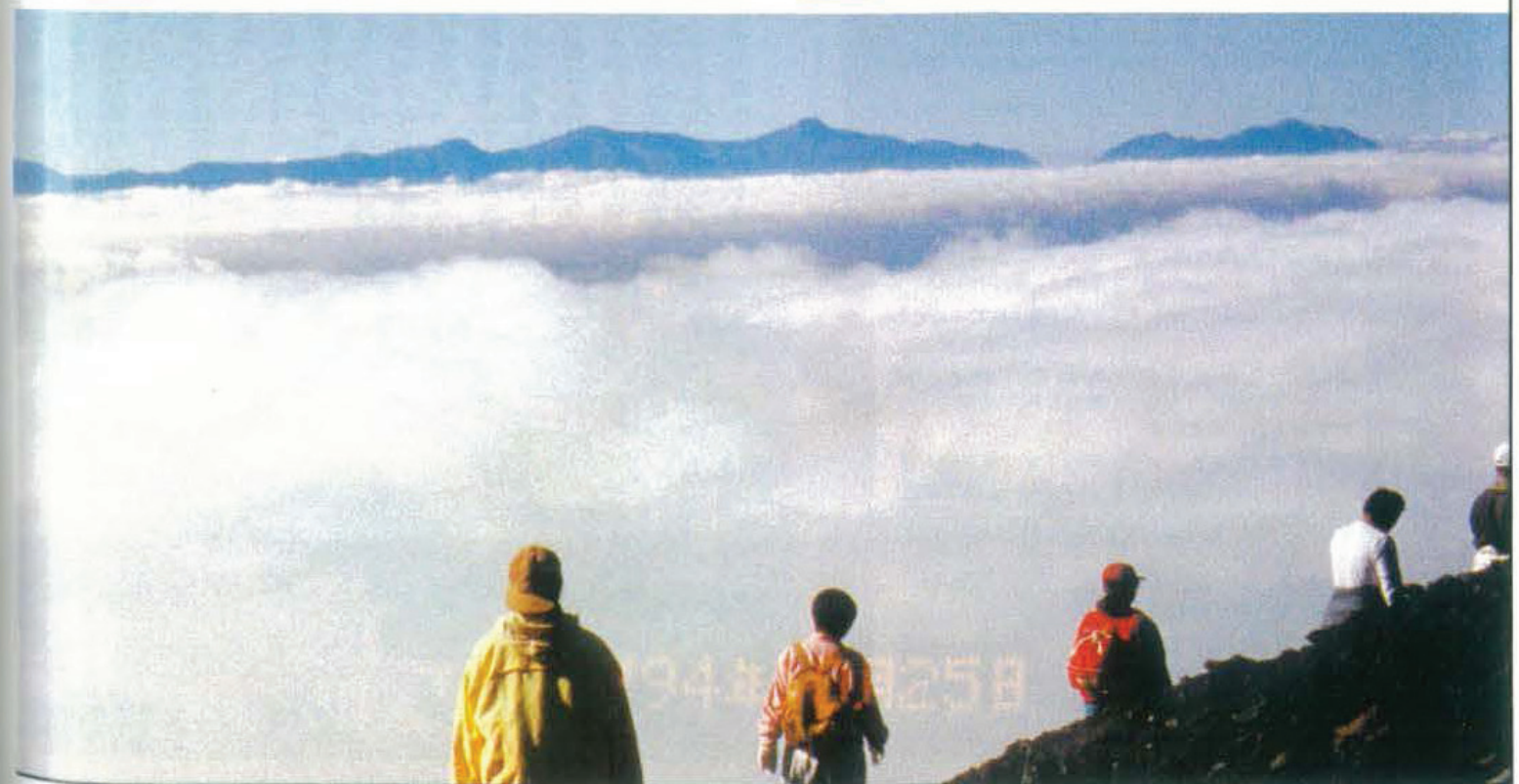
7/21 富士市岩松公民館



10/12 大沢崩れと御中道見学会



10/3 富士宮建設業婦人部





# 平成7年度 事業概要

## 概要

富士山は、大沢崩れをはじめ、南西野溪の多くにおいても、過去幾度も土砂災害を引き起こしてきました。建設省では「富士山大沢崩懸談会」を設置し、対策の検討を始め、昭和43年度から調査を開始、翌44年度に直轄砂防工事として大沢扇状地に着手しました。一方、大沢崩れ以外の野溪も火山噴出物に覆われ多量の土砂を流出し続けています。このため昭和58年度から南西野溪においても砂防工事に着手しました。

- 本年度も大沢扇状地及び南西野溪において砂防工事を実施します。
- 大沢崩れ峡谷部・源頭部の崩壊拡大を防止し、土砂災害の根元を絶つための工事に先立ち、昭和57年度より実施している調査工事を本年度も継続実施します。

(単位百万円)

## 事業費

|         | 平成6年度 | 平成7年度 | 対前年比 |
|---------|-------|-------|------|
| 直轄砂防事業費 | 3,018 | 3,241 | 1.07 |
| 砂防事業調査費 | 11    | 11    | 1.0  |

## 重点事項

### 1 大沢川の砂防事業を推進します

- ①大沢崩れ峡谷部において、引き続き調査工事を実施。本格工事の着手に向けて調査を行います。
- ②大沢沈砂地工、除石工、砂防樹林帯整備等の大沢川扇状地対策を継続して実施します。

### 2 南西野溪の砂防事業を推進します

- ①足取沈砂地工、猪の窪沈砂地工など南西野溪の砂防施設の整備を継続実施し、大沢第1ダムを完成させます。
- ②須津第2ダムに新規着手し用地取得をする他、須津第1ダム、弓沢ダム工群に工事着手します。

8/10

常葉学園大学  
大沢川扇状地視察



10/25

大沢崩れと  
御中道見学会



11/16

大井川町水防団



11/9

建大研修生  
大沢川扇状地視察





みんなで防ごう土砂災害

# 土砂災害防止月間

## 6/1⇨30

### がけ崩れ防災週間 6/1⇨7

建設省・都道府県

一瞬にして人命や大切な財産を奪い去ってしまう土砂災害。土石流、地すべり、がけ崩れなど、土砂災害のほとんどは、長雨や大雨がきっかけとなって起こります。また、阪神大震災でのように地震で起きる場合もあります。梅雨時期は雨の多い季節。災害に対して十分に備えておきましょう。

## 大沢扇状地クイズウォーク

普段は歩けない大沢扇状地をクイズを解きながら歩くウォーク大会です。自然の雄大さと厳しさ、そしてそれに立ち向かう砂防の仕事を見ながら、自然への理解を深める一日をお楽しみ下さい。

1. 主 催 建設省富士砂防工事事務所
2. 開催日時 平成 7 年 6 月 24 日 (土) \*雨天荒天の場合は翌日 25 日 (日)  
10:00~15:30 (予定)
3. 集合場所 富士宮浅間大社 湧玉の池東バス停  
受付時間 9:30~9:50 (10:00 出発)
4. コース概要 浅間大社→(バス)→大沢扇状地、導流堤  
導流堤→第 9 床固工 (午前の部)  
【昼食】12:00~12:40 おいしい豚汁あり  
第 9 床固工→岩樋部→樹林帯→導流堤→(午後の部)  
導流堤→(バス)→浅間大社
5. 参加資格 小学生~一般  
小学校 4 年生以上は個人参加可能。小学校 3 年生以下は父兄同伴。
6. 参加人数 先着 100 名 (定員になり次第締め切ります)
7. 参加費 500 円 (浅間大社から現地までの往復交通費と保険代含む)  
\*浅間大社までは各自負担。当日受付で集金します。
8. 申込方法 往復はがきに参加者氏名・住所・電話番号・年齢・性別を明記のうえ、  
富士砂防工事事務所宛申し込んでください。  
先着 100 名まで参加カード (返信はがき) を送ります。
9. 申込み先 〒418 富士宮市三園平 1100  
建設省富士砂防工事事務所「クイズウォーク係」
10. 申込締切 6 月 12 日 (月) 消印有効
11. 問い合わせ ☎0544-27-5221



### 一日事務所長・街頭キャンペーン

1. 月 日 6 月 21 日 (水)
2. 場 所 富士宮市内 (富士砂防工事事務所、ヤオハン富士宮店他)
3. 内 容 ミス富士山による一日事務所長と富士宮市内にて街頭キャンペーンを実施。

### パネル展

1. 月 日 土砂災害防止月間中
2. 場 所 富士宮駅前「富士山ふるさと展示室」「富士宮市役所ロビー」等
3. 内 容 砂防関係写真、パネル等の展示。  
ビデオ上映他。

### 情報提供のお願い

●貴重な写真、資料等お持ちの方、また災害体験を有している方の情報提供をお願い致します。

(連絡先) 富士砂防工事事務所 (建設専門官山田又は、調査課長長井まで)

☎0544(27)5221 (内線 516 又は 351)

### 建設省富士砂防工事事務所

〒418 富士宮市三園平 1100 TEL0544(27)5221

### 富士宮砂防出張所

〒418-01 富士宮市上井出 826-1 TEL0544(54)0236

富士山を守り地域の安全に貢献する